今日はまず、年代による好みの違いということについて考えてみたいと思います。

人々の好みについて、長年にわたって調査を続けている研究所があります。そこが出した報告書によりますと、年齢による好みの違いがだんだん小さくなってきているということであります。そ**の中**から、ここでは食べ物の好みの変化に注目して見ていきたいと思います。

この調査が始まったのは、今から三十年くらい前のことであります。最初の頃の調査を見てみますと、例えば、ハンバーガーが好きだと答えているのは若い人たちが中心でありまして、六十代で好きだ**と答えて**いる人は一割もいなかったのであります。それが、最近の調査になりますと、六十代におきましても、三割以上の人がハンバーガーが好きだと答えるようになってきています。もちろん、若い人たちは半分以上が好きだと答えていますから、その差はまだ結構ありますけれども、だ**んだ**んと縮まってきているということは、グラフを見るとよく分かります。同じような傾向は、ピザなどでも見ることができます。

ちなみに、最新の調査によりますと、ギョウザが好きだと答えた人の割合は、六十代が初めてトップになったということであります。

ほかの食べ物の**調査結果**についても目を通してみたのでありますが、おおむね共通して言えることは、六十代の人たちの好みが若者の好みに近づいてきているのではないかということであります。あるいは、若いときからの好みが年齢が上がっても変わることなく続いているということかもしれま**せん**。

次に、六十代の人たちが高く、若い人たちが低いものを取り上げたいと思います。それは、選挙の投票率であります。

今回は、なぜ若い人たちが投票に行かないのかということについて考えてみたいと思います。

このテーマで若い人たちにインタビューした記事がありますの**で、まず、そ**の中から幾つか紹介したいと思います。

一つは、投票に行く意味がよく分からないというものであります。自分が投票したところで何かが変わるわけではないだろう、あるいは投票しなかったことによって起こることが想像できないというような意見であります。また、候補者**の掲**げる政策が分かりにくいという声もありました。

では、どうしたらみんなが投票に行くだろうかということであります。

これに関しては、まず、簡単に投票できるようにしてほしいということがありました。例えば、ネットで投票できるといいよねというようなことであります。

ですが、最も多かった意見は、学校での教育を充実してほしいというものでありました。授業でいろいろな政策などについてもっと取り上げるといいのではないかということであります。

最後に、特に印象に残ったことについて触れたいと思います。それは、今こそ若者は投票に行くべ**きだ**という主張を述べた人がかなりいたということであります。

コロナ禍でありますとか物価高などが若い人たちの生活にも大きな影響を与えています。今こそ自分たちが声を上げるべきだという主張が選挙にどう反映されていくのか、期待を込めて見守っていきたいと**思います**。（了）